

新武蔵野クリーンセンター(仮称) 合同勉強会 (第二回)

日 時 : 平成22年9月7日(火) 19:00~21:20

場 所 : 武蔵野クリーンセンター 3階 見学者ホール

参加者 : 【施設基本計画策定委員会】田村委員長、荒井委員、新垣委員、橘委員、早川委員、越智委員、狩野委員、高橋健一委員、小酒井委員、上原委員、佐々木委員
【施設・周辺整備協議会】高橋豊委員、村井委員、藻谷委員、木村(文)委員、千綿委員、島森委員、高石委員、飯村委員、山崎委員、平田委員
【両会兼任】石黒委員、事務局(木村クリーンセンター所長他) コンサルタント(株式会社日建設計 高津主管他)

【白煙排出実証実験について】

前回の合同勉強会で出された意見を参考に、事務局との相談の上で木村文委員が修正を加えた事前配布チラシについての検討を行いました。

(委員からの意見)

- ◆ 「白煙って何？」の問いかけに対する答えとして「これは湯気です」とする。
- ◆ 「湯気」と「排ガス」を区別するべき。
- ◆ もっと「湯気」を強調した方が分かりやすい。
- ◆ ここでいう煙は「水滴」であり、水蒸気を「見える化」する実験ともいえる。
- ◆ 白煙に抵抗感があるかどうかの確認。それほど深く追求しなくてよいのではないか。
- ◆ 「煙」という言葉が悪い。
- ◆ 一般の人には煙である。このチラシは、近所の普通の人が読むものであって、普通の人を読み取れるものにしなければならない。
- ◆ 白煙防止装置の有無に関わらず、排ガスの成分は変わらないわけであり、それによって安全性に変化があるわけではないことが分かるようにしなければならない。
- ◆ 白煙防止装置を取った時の安全性を確かめる実験ではない。
- ◆ 見出しに「煙は無害！」などとインパクトを与える必要がある。
- ◆ 住民の中には、今でもクリーンセンターの排ガスが原因で喘息があるという意見も出る。そういう人にも安全なんだと理解できるように書かなければならない。
- ◆ 白煙を出すという話を聞いたとき、間近に住むものとして「エッ」と思った。害が無いのだと分かることが大事。トップページはもっと簡単に。2コマ目の「冬に吐く息が白く見えることと同じなんだね」という子供の台詞などで、「湯気」で「害が無い」ことを強調。
- ◆ 感覚の問題であり、100%全員が納得することはありえない。
- ◆ 「実験」という言葉が気に入らない。「デザインレビュー」

- ◆ 答えが全部詰まっていなくても良い。ややこしく書かず、来てもらって聞いてもらえばいいのでは。
- ◆ 地球温暖化の問題があり、今まで気になっていたことが気にならなくなった。
- ◆ サブタイトルは「白煙防止装置を止める実験について」。賛成多数
- ◆ 実験中、同じ気象条件にある他の場所の煙突の映像を取るべき。
- ◆ フロー図のタイトルは「クリーンセンターの安全対策」に戻すべき
- ◆ 白煙の量をコントロールできるのなら、もっと盛大に出してみても。
- ◆ 白煙の排出量は大事であり、多く出しすぎると嫌悪感を煽る可能性もあるし、少なすぎると実際に稼動したときに「話が違う」ということになりかねない。

【煙突高さの検討について】

委員会と協議会の共通課題である煙突の高さについて、検討に必要な情報を事務局より提供し、自由に議論する場という形を取りました。重要な課題であり、委員の皆様の見解を参考に、今後の方向や資料作成を行うこととしました。

(委員からの意見)

- ◆ デザインや外観を言う人が多いが、排ガスについて考えることが大切である。排ガスの基準値と煙突の高さはセットで考えるべきであり、新施設についての基準値の参考にした「ふじみ衛生組合」に基準値は、煙突 100mということが住民との合意の前提である。そのことをないがしろにしてはならない。
- ◆ 景観について、仰角 20° は意識して見上げる角度。日常的に見える範囲は 10° くらい。それ以上になると圧迫感がある。緑町三丁目から見える煙突の角度についてまとめるべき。
- ◆ 煙突から煙が見えたことは無い。有害なガスを出していないというのであれば、もっと低くしても良いのではないか。できるだけ目立たないものにしてほしい。
- ◆ 今の煙突を、そのまま利用することは出来ないか。
現在、可能であるか調査中である。基礎(土台)部分が大きいのだが、配置計画上他の場所に掘りづらい。しかし、現在とは反対側に穴を開ける必要があるため、補強が必要である。
- ◆ 世田谷清掃工場は、以前からの煙突を流用した。公募デザインであり、地元で親しまれている。足立清掃工場も以前からの煙突を流用しているが、強度に問題があったためカーボン補強を行った。
- ◆ 多摩の火葬場で煙突が無くなった。煙突を無くすことは出来ないか？
排ガスの量が多いため、煙突を無くすという考えは無い。
- ◆ 煙突の高さは環境保全の観点で議論すべきであり、コストを話すと、ぼけてしまう。
- ◆ 煙突はごみ処理工場が悪いものを出す象徴。
- ◆ 本来なら、基準値はゼロが良い。現在計画中の基準値で実績があるのは 100m だけであ

る。

- ◆ 1階・5階・12階から見比べてみたが、それぞれ煙突の見え方の印象が違う。それぞれの階で感想は違うと考えられる。また、近くに住む人と遠くに住む人とで印象は違う。
- ◆ 長年見たものは違和感が無い。現状よりも規制値を厳しくするのであり、そして相当の拡散が行われるわけであり、59mでも100mでも問題ない。
- ◆ 料理をしても排ガスは出る。現状、クリーンセンターの排ガスが周辺にどれだけ影響しているか。付加濃度は測定不能な値であり、59mであるか100mであるかが現在の環境に影響が無いのであれば、景観などに議論を移せば良いのではないか。
- ◆ 最大付加濃度について、現施設の30ppmではどうなるのかを資料に書き加えてほしい。お金をかけて景観を壊す意味があるのか。
- ◆ 数値うんぬんで影響が無いのであれば、目の前に高さ100m横幅10mの煙突が建つのは嫌だ。
- ◆ 煙突の高さの話は、12月の実験が終わってからの方が良い。白煙が出るのと出ないのとでは、景観に対する考え方が変わるのではないだろうか。
- ◆ 2つの高さで議論をしているが、低ければ低いほど良い。健康被害が無いのであれば、どこまで低くできるかのデータが欲しい。
- ◆ 燃やすごみの量を減らし、3炉が2炉にする訳であり、排ガスの絶対量が減る。さらに規制値も厳しくする中で、実際に計測することが出来ない数字の最大付加濃度について考えるなどはナンセンスである。100mの議論は意味が無い。59mについて実績がある訳であり、欲を言うならばどこまで低く出来るかを議論すべき。
- ◆ 排ガス拡散シミュレーションにおいて、塩化水素のみを行っており、いおう酸化物について記載されていない。煙突高さ59mの場合と100mの場合とで、シミュレーション結果の縮尺は同一にすべき。さらに、測定不能な濃度を示した意味の無い色は消すべき。